

阪神高速道路のアウトカム指標

お客様に安全・安心・快適な高速道路サービスを提供するために、渋滞の緩和等、事業による効果や成果のうち、数値化に馴染むものを対象に、次のとおりアウトカム指標を設定いたしました。(注1)

| アウトカム指標 | 指標の説明 | 平成16年度実績値 | 平成17年度末目標値 |
|-----------------------|---|----------------|---------------|
| 道路構造物保全率(橋脚補強完了率)(注2) | 耐震補強が完了している橋脚基数の割合 | 97.4 % | 97.7 % |
| 道路構造物保全率(舗装) | 路面のわだちやひび割れによる不快感が少なく、お客様が快適に感じる舗装の状態の割合(注3) | 98.9 % | 99.1 % |
| 年間事故率(注4) | 走行車両1億台キロあたりの死傷事故率 | 29.8 件 / 億台キロ | 29.5 件 / 億台キロ |
| 工事渋滞損失時間(注5) | 工事に起因する渋滞が発生することによるお客様の損失時間 | 17.6 万台・時 / 年 | 15.6 万台・時 / 年 |
| 路上工事による車線規制時間 | 路上作業を伴う工事の年間の交通規制時間 | 146 時 / km | 144 時 / km |
| 本線渋滞損失時間(注5) | 渋滞が発生することによるお客様の損失時間 | 537 万台・時 / 年 | 535 万台・時 / 年 |
| ETC利用率 | ETC利用可能料金所通行台数に対するETC利用台数 | 26.4 % (注6) | 85 % |
| 顧客満足度 | 走行性の確保、美観・景観の確保、情報提供・案内確保など、お客様の立場から見た道路の快適性に関して望む度合い | 3.0 ポイント | 3.1 ポイント |

- 注 1) これらの指標や目標値については、お客様の声や今年度末までに実施する管理コスト3割削減の状況等を踏まえて、適切に見直してまいります。
- 2) 耐震補強の対象は、昭和55年より前の基準(道路橋示方書)により建設された橋脚です。
- 3) 路面特性を表すひび割れ率、わだち掘れ深さ、縦断凹凸(平坦性)の3つの要因を組合わせた指標MCI(維持管理指数)が4.0以上の延長の割合で表しています。
- 4) 事故率の算出の元となる事故件数は、警察統計を使用しています。
- 5) 工事及び本線の渋滞損失時間は、走行速度が渋滞基準速度(30km/時)を下回った時間を累計しています。
- 6) ETC利用率の実績値は、平成17年3月最終週の平均値です。